



静岡市長

田辺信宏

静岡を『希望の岡』に

新年あけましておめでとございます。
皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、平素から、市政に対し格別なる御高配を賜り、厚くお礼申し上げますとともに、本市産業経済の振興に御尽力いただいていることに対し深く敬意を表する次第であります。

昨年は、3月に発生した東日本大震災で、言葉を失うような衝撃を受けました。私は、4月の市長就任後、被災地へ赴き、被災者の声を聞き、被害状況を視察しましたが、改めて防災対策の重要性を痛感いたしました。この貴重な教訓を本市の防災対策に活かすため、6月には緊急津波対策室を設置し、津波避難ビルの新規指定、海抜表示の標識整備、津波講演会の開催など、短期的に実現可能な津波対策を集中的にスピード感

をもつて行ってきました。今後も引き続き、様々な防災対策を実施し、市民の皆様の不安を安心に変える取組みを推進していきたいと考えております。

また、10月には、目指す都市の姿とその実現に向けた様々な取組みを示す行政計画「まちみがき戦略推進プラン」を作成しました。このプランは、「静岡☆まちみがきトーク」や「お茶カフェ☆トーク」等を通じて市民や関係団体の皆様から寄せられた声を活かして作成したものです。今後は、このプランを指針として、第2次総合計画の「世界に輝く『静岡』の創造」に向けて、まちみがきに取り組んで参ります。

本年は、新市誕生から9年になります。合併後10年の成果を目に見えらるもの、市民が実感できるものにするための重要な年となります。初夏には、新東名高速道路の県内全線開通

が予定されており、その経済効果が期待されるとあります。また、JR清水駅の東西で、文化活動の拠点となる清水文化会館「マリナート」と、清水駅西第一地区市街地再開発事業が完成するなど、清水都心地区の活性化にも弾みがつくこととなります。

このような成果を都市の発展に結び付けるため、広く世界から静岡市を見つめる「鳥の眼」と、身近に市民ひとりひとりの生活を見つめる「虫の眼」という2つの視点から見据える都市ビジョンを、市民の皆様、関係団体の皆様と共有し、「希望の岡」静岡の実現に向けて取り組んで参ります。

皆様におかれましては、ご理解を賜り、今後とも市政への二層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、静岡商工会議所のさらなる御発展と会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。